

あしかがよしあき あけちみつひで
足利義昭と明智光秀の

ゆかりの地、
御所・安養寺跡



乗谷朝倉氏遺跡の南側に位置する御所・安養寺跡。ここが、將軍足利義昭が織田信長に担がれて上洛する3か月前まで滞在していた場所であることをご存知でしょうか。

一つの場所として呼んでいます。本来は御所跡と安養寺跡という隣接した2つの遺跡から成り立っています。明治9（1876）年の地籍図には、一乗谷の東新町の小字の中に「五所」「安如寺」などがみえます。

御所跡には、永禄10（1567）年から翌11年にかけての9か月間、義昭が滞在しています。御所跡では発掘調査が行われましたが、後世に



御所・安養寺跡
(画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

行われた土地改良事業等により大きく削平を受けていたため、溝跡などの少数の遺構が確認されただけで、建物の配置などは分かりませんでした。

御所跡の南側に立地する安養寺跡



一乗谷全景
(画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

は、現在の福井市足羽1丁目にある浄土宗西山禅林寺派の寺院が戦国時代に存在した所です。寺伝によれば、もともとは府中（現在の越前市）にありましたが、文明5（1473）年に朝倉孝景が一乗谷に建立したと伝えられています。同寺は広大な寺地を持つ一乗谷でも最も大きな寺院の一つでした。義昭が一乗谷に下向し、ここを御所としたのも、安養寺が規模の大きな寺院であったことが一つの要因と考えられています。発掘調査では、数棟の建物跡や石垣、池、溝跡等、寺院跡の一部が確認されています。これらの建物跡群の背後にある谷の中には、現在も多くの石仏・石塔などが残されています。

義昭が一乗谷に滞在した頃、どのような人物が越前に来ていたので

関連史料・ゆかりの地

上城戸跡



(画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

上城戸跡の外に位置する東新町の小字には「斎藤」という字があります。斎藤道三の孫、龍興は、朝倉氏とともに刀根坂の戦いで討死にしており、一乗谷にも滞在していたと考えられています。同時代を生き光秀と龍興、二人はどこかで会ったことがあるかもしれません。

【住所】福井市東新町(JR 福井駅から浄教寺行き京福バス「一乗小学校前」下車徒歩1分)

しようか。この頃作成された義昭に従う幕臣や各地の大名を記したりスット「光源院殿御代当参衆并足軽以下衆覚」に、興味深い名前があります。「足軽」の一人として、明智光秀の名があるのです。この史料から光秀は当時、流浪する義昭の側に仕えていたと考えられています。義昭が信長に担がれて上洛するにあたり、信長との交渉で大きな役割を果たしたのは光秀だったといわれています。その奔走の舞台の一つは、この御所・安養寺跡だったのかもしれませんが。

参考資料等

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編 『一乗谷朝倉氏遺跡特別史跡指定 40周年 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館開館 30周年 一乗谷朝倉氏庭園特別名勝指定 20周年 記念特別展 戦国城下町一乗谷を歩く 一発掘調査と環境整備のあゆみー』 柴裕之編『図説 明智光秀』戎光祥出版

執筆・協力

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員 石川 美咲